

# 特集 越生町子ども議会



12月17日、越生町役場議場で令和元年度越生町子ども議会が開催されました。越生小学校の松村愛菜さんが議長を務め、越生小学校・梅園小学校の6人の児童（6年生）が代表議員として町への要望や意見を提案し、町長や教育長、担当課長が答弁しました。また、「あいさつ推進宣言」の提案説明が行われ採決の結果、全会一致で可決されました。（インフルエンザ予防のため、特別にマスクを着用しています）

## 「あいさつ推進宣言」の提案説明



▲大島楓花議員  
(梅園小)



▲長迫紀央議員  
(越生小)

あいさつは温かい心の通い合う人間関係を築く、とても大切なものです。私たちは、越生町をさらに明るく元気にするために、私たち一人ひとりが、明るく元気なあいさつができるよう、平成28年に発議した「あいさつ推進宣言」を見直し、新たに「あいさつ推進宣言」を発議します。

この宣言には、あいさつ推進について、どのように取り組んでいくかが示してあります。

この宣言をこの子ども議会で行うことで、越生の子どもたちが、あいさつの大切さについて、もっと考えるようになると思います。そして、あいさつを通して、生涯にわたって心を通わせる仲間を増やしていきたいと思います。

## あいさつ推進宣言

あいさつは、人と人との輪を広げ、温かい心の通い合う人間関係を築く、とても大切なものです。平成28年度の『あいさつ推進宣言』をさらに発展させ、越生町を明るい元気な町にするために、私たちは、ここに宣言します。

- 一 私たちは、心こめて、大きな声を出してあいさつをします。
  - 一 私たちは、だれとでも明るくあいさつを交わします。
  - 一 私たちは、時と場に応じたあいさつをします。
- そのために
- 一 私たちは、登下校時、地域の方々に積極的にあいさつします。
  - 一 私たちは、学校であいさつ運動を推進します。
  - 一 私たちは、時と場に応じて、あいさつを使い分けます。

令和元年12月17日(火)越生町子ども議会



▲小椋莉彩議員  
(梅園小)

### 越生町の人口を増やすために

越生町の人口は、年々減ってきています。人口が減ると、町の税収が減り、行政の運営が大変になります。また、イベント等も盛り上がりなくなると、町全体の活気もなくなります。

この問題の解決策として①空き家や空き地の有効活用、②移住者を補助する事業、③子育て世帯を呼び込む仕組みづくりを提案します。

町では「空き家バンク制度」や「空き家のリフォーム補助金」という制度があり、空き家や空き地の有効活用、移住者への金銭的支援を行っています。「子育て世帯を呼び込む仕組みづくり」はとても重要で、子どもの医療費の補助や英語教育の充実など、子育て世帯に対して、魅力のある町づくりに努めています。越生駅西口に「観光案内施設」を建設し、「町の窓口」として魅力を発信していく予定です。

町長



▲島野公伸議員  
(越生小)

### タブレットの導入

学校にタブレットを導入することを提案します。タブレットがあれば授業中、分からないことがあってもすぐに調べることができるので勉強もはかどります。また、メモを取ったり、絵をかいたり写真をとる機能なども、学校の授業の中で有効に活用できると思います。いかがでしょうか。

タブレットはとても便利で学校の授業等でも有効に活用することができます。なので、今年度、町内の小学校のパソコンはすべてタブレット型パソコンに変更しました。これから授業で使っていくことが多くなると思います。

来年度からは「プログラミング教育」も正式に始まります。未来を担う越生町の子どもたちが、これからの時代に力が発揮できるように、さらに教育環境の充実に努めていきます。

教育長



▲小金井結仁議員  
(梅園小)

### みんなが安心して暮らせる町へ

全ての人が安全に安心して暮らせるように、バリアフリー化を進めることを提案します。バリアフリー化が進めば、お年寄りや障がいがある人が生活しやすくなるのはもちろん、これから年を取っていくぼくたちも安心して越生町に住み続けることができます。いかがでしょうか。

町の公共施設は、高齢者や障がいを持つ人でも使えるように、スロープや手すり、点字ブロックを設置するといった工夫をしています。高齢者や障がいを持つ人に安心して暮らしてもらうための取組として、認知症サポーターの養成講座を行っています。小学校でも開催しているので、みなさんも講座で学んだことを実践してみてください。これからも、施設の整備や住民同士が声をかけ合える支え合いのまちづくりを進めていきます。

健康福祉課長